令和８年度　長崎市立丸尾中学校　学校だより

まるお

＜学校教育目標＞
自ら学び　自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

＜重点目標（スローガン）＞
感謝＋優しさ＝笑顔と幸せへの道
発行：長崎市立丸尾中学校
文責：校長　川口　猛
令和８年１１月２日（月）臨時号

＜道しるべ＞
人は不幸の時には
一を十に思い、
幸福の時には
当たり前のようにそれに馴れて
十を一のように思います。
瀬戸内寂聴

長崎の地を離れて、自信になったこと＋新たに学んだこと→新たな高みを目指す

令和８年１０月２８日(水)～１０月３０日(金)に、第２学年は、修学旅行に出かけました。修学旅行は、第１日目、長崎新幹線で博多へ。その後、山陽新幹線で一路京都まで行き、京都自主研修を行い、２日目は、待ちに待ったＵＳＪでした。泉大津港からフェリーに乗り船中泊し、３日目は、太宰府天満宮と九州国立博物館でした。来年のために祈ったでしょうか？

仲間同士協力して過ごした３日間の修学旅行。生徒たちは、自分たちのよさを発揮するとともに、これからの課題にも出会いました。そして私自身も、本校が大切にしている「感謝」の心を、日々の言葉や行動へどうつなげていくか、改めて考える旅となりました。具体的に見つめなおしたことを記します。

≪１日目≫ 時間を守り 仲間と巡った京都

京都自主研修では、各班がまとまり、協力しながら名所を巡りました。時間厳守を心がけ、宿舎にも予定どおりに到着。時間を守ることは、仲間との約束を大切にすることでもあります。楽しみながらも、やるべきことをしっかり行う姿に、頼もしさを感じました。班で協力して行程を進められたことは、これからの学校生活にも生きる確かな成果でした。

≪２日目≫ 楽しさの中で見つけた課題

２日目は大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）へ。仲間と楽しみ、おおむね充実した時間を過ごせました。一方で、班行動には課題も残りました。楽しい場面でも、仲間を意識し、約束を守れていたか。京都で発揮できた協力する力を、どのような場面でも生かすために、自分たちの行動を振り返る機会となりました。

≪船中泊 自分たちの言葉で明日につなぐ≫

夜は泉大津港から新門司港へ、阪九フェリーで移動しました。少し揺れを感じたのは、私だけだったでしょうか。初めて船中泊を経験した生徒もいたことでしょう。夕食、入浴、自由時間を経て、班長会議と班会議を行い、就寝しました。

班長会議では、その日の課題を確認しました。Ｉ先生、W先生をはじめ、Ｉ先生、Ｔ先生など、支えてくださる先生方の思いにも目を向け、班長たちから様々な意見が出されました。それを各班へ持ち帰り、翌日の行動につなげました。課題を自分たちの言葉で捉え、仲間に伝えたことは、大切な成長です。

≪３日目≫ それぞれの心に残った旅

新門司港から太宰府天満宮へ。あいにくの雨でしたが、九州国立博物館へ足を運び、自由散策と昼食を済ませて帰路につきました。午後３時過ぎに丸尾公園へ到着。バスの中で解団式を行い、月曜日の予定を確認して旅を終えました。

解団式で印象に残った場所を尋ねると、私は USJ が多いだろうと予想していました。ところが、京都を挙げる生徒も、USJ を挙げる生徒も、太宰府天満宮を挙げる生徒もいました。同じ旅でも、心解団式で 私に残るものは一人ひとり違います。それぞれが自分なりの楽しさや価値を見つけたことを、うれしく思いました。

≪自身が受け止めた課題≫

解団式では、もう一つ、生徒たちに問いかけました。「家に帰って、まず言うことは何でしょう」。返ってきたのは「ただいま」。「では、その次は？」と尋ねると、「修学旅行の思い出話」という答えが出ました。無事に帰ったことを知らせ、楽しかった経験を家族に話す。それも、大切なことです。その一方で、私が期待していた、

家族に「ありがとう」を伝えるという答えは、すぐには出てきませんでした。挨拶の中でも、多くの人の協力や支えがあって旅ができたこと、それは当たり前ではないことを話しました。しかし、伝えたつもりの思いが、生徒自身の言葉や行動に結び付くまでには、まだ働きかけが必要なのだと感じました

この場で答えが出なかったことだけで、生徒に感謝の気持ちがないとは考えていません。支えに気づき、それを言葉にする機会を、日頃から十分につくれていただろうか。これは私自身の反省であり、学校経営上の課題として受け止めています。

≪当たり前の向こうにある支えに気づく≫

本校が今年度重点目標大切として大切にしているのは、「当たり前は当たり前じゃない。ありがたし。＝感謝の心」という考え方です。日々の暮らしも、今回の修学旅行も、様々な人の支えによって成り立っています。「ありがたし」と受け止めることが、感謝の始まりです。旅行の準備をし、送り出してくれた家族。安全な移動や宿泊、食事を支えてくださった方々。引率の先生方。そして、ともに過ごした仲間。その支えに気づき、「ありがとう」を自分から伝える。学校だよりや日々の対話を通して伝えてきたこの思いを、実際の言葉や行動に結び付けることを、これから一層大切にしていきます。

≪最高学年へ向けて 気づき 考え 行動する≫

２学期の重点目標は、「凡事徹底」「挨拶」「授業規律」「優しさ」です。時間や約束を守ること、挨拶や感謝を言葉にすること、仲間を思いやること。旅での成果と課題は、毎日の学校生活につながっています。できたことを認め合い、次に何をするかを考えてる時期にきています。中学校生活は半分を過ぎ、**最高学年になる日も近づいているのです。**どのような学級、学年をつくり、先輩として、後輩にどのような姿を示すのか。自分たちで目標を考え、必要な方法を選び、行動し、成果を確かめる。その積み重ねが、新しい自分たちの足跡になります。変わる（change）機会（chance）は、日常生活の中、そして、今回の修学旅行等、共に過ごす時間の中にあります。時間は流れていきますが、**何もしなければ、ただ流れていくままです。**そこで、**新たな課題に挑戦しなければ（challenge）更にもう一段高いところを目指すことはできません。**この修学旅行中にできたこと、今後、改善をしなければならないことなどを個人の中で、集団の中でしっかり整理し、できたことに対しては自信にし、できなかったことに対しては、解決のためのエネルギーにして、日常の学校生活・家庭での生活を送ってほしいと考えてます。

≪感謝と優しさを 笑顔と幸せにつなげる≫

すべての人に感謝し、優しい心で接することが、笑顔と幸せへの道になる。一人ひとりの「ありがとう」と相手を思う行動が、仲間の安心や笑顔をつくります。保護者の皆様、ご準備と温かな支えをありがとうございました。ご家庭でも、旅の思い出とともに、誰にどのような感謝を伝えたいか、ぜひ話題にしていただければ幸いです。















